無縁社会、いまこそ「思いやり」を

法然上人800年大遠忌記念フォーラム

母なるものとの共生（ともいき）

～法然上人の風土～

宗祖・法然上人の800年大遠忌（2011年）を記念して、浄土宗が主催するフォーラム「母なるものとの共生」（山陽新聞社共催、京都新聞社後援）が11月13日、岡山市北区の山陽新聞社さん太ホールで開かれた。岡山県は、法然上人生誕の地（旧美作国久米南条郡稲岡荘）に当たる。称名念仏による万人救済を実践して、日本仏教に新たな地平を切り開いた上人の魂と理想は、その岡山の地でどのようにはぐくまれたのか。就実大名誉教授の柴田一さんら4人のパネリストが話し合った。討論では、「無縁社会」が叫ばれる今こそ、法然上人の共生思想を広めることが重要―との認識で一致した。

第1部　ともいきがたり「法然上人と母」

東京経済大学名誉教授　石丸　晶子さん

愛はスキンシップで

法然上人の母上、秦氏（はたうじ）については、ほとんど知られていません。伝記では、温和で信仰深い女性だったこと。法然上人が15歳で比叡山に登られて、数カ月後に亡くなったことが分かるだけです。この最後の時期、毎日比叡山の方へ向かい、わが子の幸せを願って合掌しておられたということです。

父上の漆間時国は、地元の豪族でしたが、屋敷が夜討ちされ命を落とされます。いまわの際に「敵討（かたき）ちはするな」と、わが子に言い残した偉大な人でした。

遺言に従って法然上人は9歳で出家。比叡山で15歳から43歳まで修行し、「真理とは、仏の慈悲とは何か」に悩み続けます。そして唐の善導大師の著書によって黎明（れいめい）を迎えます。仏の慈悲は、万民に向かって発せられたものだと確信された。自らの悟りを民衆に告げ知らせようと山を下り、そこで教えを説き続けられたのです。

当時の仏教は万人のものではなく、貴族仏教、学問仏教でした。法然上人は、仏教救済の対象外だった女性も「もちろん救われる」と説かれた。当時、世の中には戦乱で夫を亡くした女性や孤児があふれ、悲惨な日々であったといわれます。法然上人は、とりわけ社会的弱者に目を注ぎ、遊女や漁民、猟師などに与えた温かい言葉が多く伝えられています。

法然上人の、このような人格を培ったのは岡山の風土です。人格形成の基礎には、隣近所の子供達と一緒になって遊んだ日常、父母から十分愛されたという体験があると思います。その体験が比叡山での長い苦悩を耐え抜く力になったのでしょう。時代は変わっても子どもへの愛はスキンシップで示されるものです。言葉だけでなく、頭をなでたり抱きしめて「あなたが大切だ」と伝えることが大切です。法然上人も、母君からそうやって育てられたに違いないのですから。

比叡山で、法然上人は「将来の座主」とも期待された逸材でしたが、青白き秀才ではなかった。やせた人格者でもなかった。

法然上人は「仏の慈悲は、あらゆる階層の人々に平等に注がれている」と伝え、南無阿弥陀仏のお六字を、日本人が生きる支柱に育てた方です。念仏する人々は、先祖からの命の流れの中に自分も加わっていくと信じ、命を全うしていきました。

賢人、偉人を輩出した岡山の地で、卓越した第一人者が法然上人だった。光は岡山から出た、と思わざるをえません。800年前、岡山が法然上人に託して世の中に光を投げかけてくれたのです。

いしまる・あきこ　1935年、東京生まれ。東京大文学部卒。有島武郎研究から、女性史、法然研究に向かい91年、「式子内親王伝―面影びとは法然」で第1回紫式部文学賞。著書に「歴史に咲いた女たち」（全5巻、広済堂出版）ほか。

第2部　ともいき談義　「母なるものとの共生」

就実大学名誉教授　柴田　一さん
立教大学教授　阿部　珠理さん
浄土宗僧侶　吉原　知仙さん
コメンテーター　石丸　晶子さん
コーディネーター　佛教大学教授　高田　公理さん

つながり再生の鍵は宗教　柴田さん

人の心こそが弱者を守る　阿部さん

家族で合掌思いはひとつ　吉原さん

高田　きょうは、法然上人と両親との関係、故郷や大地との関係を見つめながら「母なるもの」との共生（ともいき）について考えていきます。

柴田　法然上人は幼いころ、父の遺言に従って敵討ちをやめ、恩しゅうを超えて仏門に入られた。仏に帰依することで恨みを浄化されたのです。

修行の後、「阿弥陀（あみだ）さまの方から手をさしのべて救おうとしてくださるのだから、私たちは、そちらに目を向け南無阿弥陀仏と唱えるだけでいい」と説かれた。難しい仏教を、やさしい仏教にして、上下の隔てなく万民に広められた。そのあたりが法然上人の偉大さだと思います。

岡山の人々は、父なる中国山地と母なる瀬戸内に抱かれて育ち元来、温和な気風です。石丸さんのお話でも、法然上人は父母や友だちの愛情をたっぷり受けていると指摘された。法然上人の育てられ方には、現代教育のあり方に通じるヒントがあります。

阿部　私は、米国サウスダコタ州のインディアン、スー族の調査・研究を続けています。スー族の教えには「大地は7世代先の子孫から借りている」というのがあります。だから、大地は損ねることなく、無傷で子孫に残さなければならない。非常にエコロジカルな考え方を持った種族です。

現在は、居留地に住まわされ、米国で最も貧しく不健康な民族といわれます。しかし、美しく健全な、非常につながりの強い社会でもあります。

日本では「無縁社会」が問題化しています。インディアン社会は貧しく病気がちでも、隣人のことを心配する強い人のつながりがある。共生の思想を実践していると実感しています。

吉原　住職だった主人は大学にも務める忙しい身だったので、私自身が僧侶の資格を取得しようと本山で修行しました。修行中は、家族に連絡が一切できません。当時、二人の息子は小学生で、私を引き留め大泣きしたこともありました。

主人はそんな時、「離れているお母様と同じようにお経の練習をしよう」と諭したそうです。これが私たち夫婦の初めての教化（きょうけ）でした。それは共生の思想の一つだと思っています。

法然上人の母、秦氏も毎日、法然上人を思って比叡山に向かって祈り続けたといいます。遠く離れても、同じ気持ちで合掌することで心の安らぎを得ておられたのでしょう。

最近は先祖供養がおろそかになり、お経もあげず、納骨もしない葬儀さえあると聞きます。先祖供養も合掌もせず、心のよりどころをどこに求めるのか。家族で合掌すれば思いが一つになるはずです。

石丸　お3人とも期せずして、話が同じテーマに収斂（しゅうれん）しました。つまり今の社会で失われている人と人のつながりを、どう回復していくかということです。無縁社会の中で弱者が虐待されるという問題も起きています。これについても考えてみたいのですが。

阿部　社会的弱者を社会がどう扱うかは文明のレベルを表すと思います。現代日本は身障者や老人などを排除していく社会です。違いを許容できないところがある。スー族の社会はその対極で、弱者を包摂（ほうせつ）する社会です。

学校でいじめがない。老人が大切にされている。スー族の社会は精神的に日本社会よりもはるかに進んでいると感じます。制度でなく、人の心が弱者を守っている社会なのです。

高田　昔の日本社会は、お年寄りを大切にしたし、他所から来た見知らぬ人でも歓待する考え方があったはずですが。

柴田　日本社会は縦軸で見ますと、先祖を大切にしなくなり、家族で墓参りをしなくなり、子どもが邪魔にされ始めた。つながりの再生は老人を大切に、子どもに愛情を注ぐという、当たり前のことから始まると思います。

横軸で見ると、宗教がつながり再生の鍵になる。10年ほど前、私は町内の大師堂を幼友達みんなで修理したのですが、そのお祝いの酒席で互いに、すっかりうち解けることができた。これが地域づくりかと実感しました。私は真言宗ですが、うち解けると浄土宗も真言宗もなくなる。基本的な考え方は同じですからね。

阿部　日本社会は高度成長以降、「社会経済に役立つか、役立たないか」の目で人間を見るようになりました。宗教の出番はそこにある。「人間は共生、みんな同じなんだ」という法然上人の教え、その人間観の復活こそが求められています。

高田　リーマンショックのあたりから、社寺に若者の参拝が増えていると聞きます。縁をつなぐ試みをする若者が、本当に増えているのですか。

吉原　占いで見てもらって祈願に来る若者が増えています。本来の形ではないとしても、それが入り口になってお参りするようになってくれたらいいと思います。

阿部　自分を振り返ると、縁によって人生がつくられてきたと感じます。インディアン研究も、芥川賞作家の中上健次さんと知り合いになったのがきっかけです。だんだんインディアンの世界に引き込まれるようになり、縁の大切さを感じています。

柴田　子どものときに徹底的に愛された子どもは、柳のようにしなやかになります。法然上人もそうだった。社会が大混乱に陥ったときに宗教家が現れみんなの悩みを聞くカウンセラーになる。法然上人のような方の出現が21世紀の今、求められています。

石丸　共生とか、つながりの社会を実現するには、まず一番身近なところから始めるべきです。ご近所で互いに声を掛け合う社会、それが人と人のつながりの基本です。一人一人が小さな心配りを実行することで、閉鎖された家族の心を解き、やがて開かれた社会になっていく。それが共生社会の源だと思います。

高田　現代は情報社会といわれますが、本当に情けに報いてくれるのは、笑顔や心遣いの言葉です。情報社会を豊かにするうえでは、それがたいへん重要です。「身近なところで心と心をつなぎとめていくことが、共生という大きな社会の流れをつくっていく入り口になるのではないか」。きょう、パネリストの皆さんのお話は、そういうところに収まったと思います。

無縁社会といわれる現代に、共生をどう実現していくかについて話し合うパネリストたち（11月13日、岡山市の山陽新聞社さん太ホール）

しばた・はじめ　1930年、岡山市生まれ。岡山大教育学部卒。岡山県立博物館主任学芸員、兵庫教育大教授などを務める。05年まで就実大学長。専門は日本近世史。著書に「渋染一揆論」（明石書店）ほか。

あべ・じゅり　福岡市生まれ、立教大社会学部卒。カリフォルニア大ロサンゼルス校大学院修了。立教大アメリカ研究所所長。専門はアメリカ先住民研究。著書に「ともいきの思想」（小学館101新書）など。

よしはら・ちせん　愛知県生まれ。浄土宗山梨教区寺庭婦人会会員。甲斐善光寺の吉原浩人71世（早稲田大教授）に嫁ぎ04年、浄土宗僧侶となり同寺副住職を務める。PTAや地域活動にも参加している。

コーディネーター　高田公理さん

ともいき　法然上人の教えにも表れた「いのちの本質」にかかわる解釈。現在ある自分の「いのち」は、祖先から受け継ぎ、子や孫に引き継がれる尊い存在だ。一個の「いのち」には、過去から未来へ連なる、いくつもの「いのち」が宿っている。

「いのち」は有形、無形を問わず、あらゆるモノの中にも存在する。そうした無限で多様な「いのち」とともにあることが「ともいき」である―とする。

浄土宗21世紀劈頭（へきとう）宣言

愚者（ぐしゃ）の自覚を
家庭にみ仏（ほとけ）の光を
社会に慈（いつく）しみを
世界に共生（ともいき）を

【総本山・大本山と800年大遠忌特別記念法要】

総本山 知恩院（京　都）　平成23年3月27日～4月25日
大本山 増上寺（東　京）　平成23年4月1日～9日
大本山 金戒光明寺（京　都）　平成23年4月1日～5日
大本山 知恩寺（京　都）　平成23年4月20日～25日
大本山 清浄華院（京　都）　平成23年4月9日～13日
大本山 善導寺（久留米）　平成25年4月12日～16日
大本山 光明寺（鎌　倉）　平成23年7月3日～7日
大本山 善光寺大本願（長　野）平成20年5月20日～22日（終了）

平成23年に、宗祖法然上人の800年大遠忌（だいおんき）を迎えます
法然上人の心とともに、新しい「共生（ともいき）文化」を創造しましょう

法然共生
宗祖法然上人800年大遠忌

浄土宗 Jodo Shu
Buddhist Denomination
http://www.jodo.or.jp

大遠忌記念事業トピックス

いよいよ法然上人800年大遠忌
法然上人像が
阿弥陀如来像と対面
800年の時空をこえ知恩院で

来る平成23年1月25日は、浄土宗の
宗祖法然上人800回めの御命日です。
総本山知恩院では、上人1周忌を機に
造立された阿弥陀如来立像が、
800年の時空をこえて
法然上人像に対面します。
また同日、大本山増上寺からは、
大遠忌を記念する念仏行脚が出立。
約40日をかけて知恩院へと向かいます。

重要文化財
源智上人造立阿弥陀如来立像
（浄土宗蔵）

法然上人八百回忌
特別展覧会　法然 生涯と美術
史上初の大回顧展を京都で開催

会期　平成23年3月26日(土)～5月8日(日)
※9時半～18時(金曜日は20時まで)　※月曜日休館(5月2日を除く)
会場　京都国立博物館(京都市東山区)
電話 075-525-2473(テレホンサービス)
URL http://www.kyohaku.go.jp/
前売　一般1,200円・大高生700円・中小生300円
主催　京都国立博物館　NHK京都放送局　NHKプラネット近畿　京都新聞社

法然上人の伝記の集大成ともいえる国宝「法然上人絵伝」を中心に、上記の阿弥陀如来立像をはじめ、ゆかりの品を一堂に紹介する史上初の大回顧展です。